

和牛の短期肥育における食い止まりの防止には 発酵飼料の積極的な活用がより効果的である

福島県農業総合センター 畜産研究所 沼尻分場

部門名 畜産一肉用牛一畜産栄養

担当者 齋藤美緒、遠藤幸洋、妹尾毅、佐藤亮一、石川雄治

I 新技術の解説

1 要旨

短期肥育は、短期間に濃厚飼料を多給することにより、食い止まりや第一胃食滞などを併発しやすいため、醸造副産物を主原料とした市販の発酵飼料を活用し、短期肥育への影響を検証した。

発酵飼料の給与量を全期間定量(1.0kg/日・頭)とした「給与群」、肥育前期に増量(1.5kg/日・頭)させた「強化給与群」、通常の短期肥育である「無給与群」について、採食量、体重及び肉質を比較したところ、発酵飼料の強化給与が有効であることが示唆された。

- (1) 肥育期間に発酵飼料を給与した給与群と強化給与群は、肥育中期まで濃厚飼料摂取量の落ち込みが見られなかった(図1)。
- (2) 特に、強化給与群では、肥育後期にかけて濃厚飼料摂取量が維持できた(図1)。
- (3) 強化給与群では、他の牛群と比較して体重はより増加する傾向が見られた(図2)。
- (4) 強化給与群の枝肉成績については、他の牛群と比較して枝肉重量やロース芯面積が優れていた(表1)。

2 期待される効果

- (1) 肥育牛の食い止まりの防止につながる。
- (2) 短期肥育による生産コストの低減が図られる。
- (3) 短期肥育による牛舎回転率の向上が図られる。

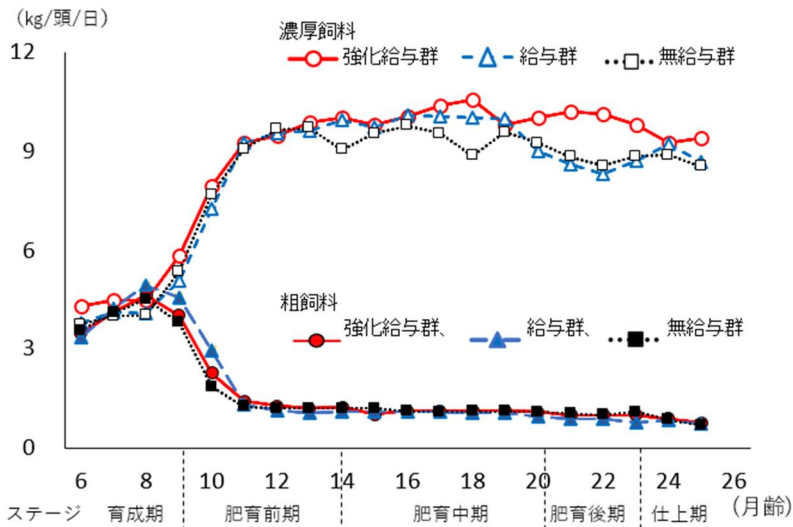
3 適用範囲

- (1) 和牛肥育農家

4 普及上の留意点

- (1) 発酵飼料は、開封後に酸化しやすいため、特に暑熱期間の変質に注意すること。

II 具体的データ等



注) 濃厚飼料 = 配合飼料 + 発酵飼料 + 大豆粕

図1 飼料摂取量の推移

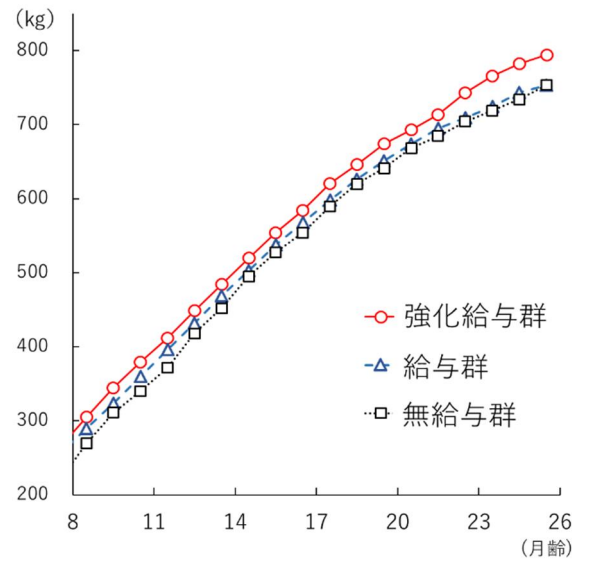


図2 体重の推移

表1 枝肉成績及び飼料費

発酵飼料給与量	強化給与群 (肥育前期1.5kg、他1kg給与)	給与群 (全期間1.0kg給与)	無給与群 (給与しない)	(参考) 通常肥育 当场データ
出荷月齢	25.3 ± 0.2	25.3 ± 0.6	24.9 ± 0.2	28.7 ± 1.0
枝肉等級	A5(4頭)、A4(1頭)	A5(9頭)、A4(1頭)	A5(4頭)、A4(1頭)	-
枝肉重量 (kg)	521.0 ± 31.0	493.0 ± 32.0	512.0 ± 56.0	-
ロース芯面積 (cm ²)	73.2 ± 7.2	64.8 ± 6.0	67.4 ± 11.7	-
歩留基準値	76.7 ± 1.6	75.6 ± 0.9	75.5 ± 1.6	-
BMS No.	9.4 ± 2.1	9.8 ± 1.5	9.4 ± 1.5	-
枝肉価格 (千円)	1,019 ± 32	951 ± 186	1,001 ± 165	-
4カ月齢～出荷までの 1頭あたりの飼料費	564,303	542,317	538,518	617,563
通常肥育との差額 (円)	△ 53,260	△ 75,246	△ 79,045	-

III その他

1 執筆者

齋藤美緒

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 ①令和3～7年度、②令和6～8年度
- (2) 研究課題名 ①有望系統等現地適応性試験〔JAグループ福島からの寄附金〕、②和牛肉の持続的な生産を実現するための飼料利用性の改良〔みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進(委託プロジェクト研究)〕

3 主な参考文献・資料

- (1) 肥育前期に濃厚飼料を多給した短期肥育は通常出荷(全国平均)と同等である(福島県農業総合センター畜産研究所沼尻分場 令和3年度参考成果)
- (2) 短期肥育の発酵飼料給与が肥育中期までの飼料摂取量を増加させる(福島県農業総合センター畜産研究所沼尻分場 令和5年度参考成果)